

平成17・18・19年度

埋 蔵 文 化 財 調 査 年 報

- 国庫補助事業対象分 -

2008年3月

太子町教育委員会

例 言

1. 本書は、平成17・18・19年度に実施した発掘調査のうち、国庫補助事業として実施した町内遺跡確認調査の概要報告書である。
2. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課海野浩幸が担当した。
3. 本書の示す標高はT.Pを基準とし、方位は磁北を示す。
4. 本書で用いた経緯度は、世界測地系を基準とした。
5. 本書の執筆・編集は、海野が行った。
6. 遺物実測図の断面は、縄紋土器・弥生土器・土師器は黒抜で、須恵器・磁器・瓦は白抜で示した。
7. 本報告書に使用した図面・写真は、太子町教育委員会が保管している。



図1 太子町位置図

調査体制

【平成17年度】

事務局 教育長 圓尾哲一
教育次長 山本庄一郎
社会教育課長 森田真一
同 係長 菅田ゆき
同 主査 竹田一二三
同 主査 丸尾正美

文化財担当

社会教育課主査 三村修次
同 主査 海野浩幸

【平成18年度】

事務局 教育長 圓尾哲一
教育次長 塚原二郎
社会教育課長 森田真一
同 副課長 菅田ゆき
同 係長 竹田一二三
同 主査 丸尾正美

文化財担当

社会教育課主査 三村修次
同 主査 海野浩幸

【平成19年度】

事務局 教育長 圓尾哲一
教育次長 塚原二郎
社会教育課長 森田真一
同 係長 森田まさ代
同 係長 竹田一二三
同 主査 二ノ丸麻理子

文化財担当

社会教育課主査 三村修次
同 主査 海野浩幸



調査風景

目 次

例言 調査体制

I 平成17年度調査概要	1
平成17年度国庫補助事業調査概要	
斑鳩寺遺跡（第10次調査）	3
樋ノ上遺跡	6
鶯石田遺跡	8
竹広字前田	11
II 平成18年度調査概要	14
平成18年度国庫補助事業調査概要	
松尾遺跡	16
東南遺跡（第23次調査）	18
糸井字村ノ北	21
東保高田遺跡	23
立岡南遺跡（第4次調査）	25
東南遺跡（第24次調査）	27
III 平成19年度調査概要	33
平成19年度国庫補助事業調査概要	
川島遺跡	35
城山遺跡	37
沖代遺跡	41
東南字田屋	43
王子遺跡	45
斑鳩寺南遺跡	47
樋ノ上遺跡	49
矢田部遺跡	51
IV 報告書抄録	56

挿図目次

- 図1 太子町位置図
- 図2 平成17年度調査位置図
- 斑鳩寺遺跡(第10次調査)
- 図3 調査位置図
- 図4 トレンチ配置図
- 図5 遺構平面図・土層断面図
- 図6 出土遺物
- 図7 石列1(東から)
- 図8 石列2(南から)
- 図9 石列3(西から)
- 樋ノ上遺跡
- 図10 調査位置図
- 図11 試掘坪配置図
- 図12 土層断面図
- 図13 出土遺物
- 鶉石田遺跡
- 図14 調査位置図
- 図15 試掘坪配置図
- 図16 土層断面図
- 図17 出土遺物
- 竹広字前田
- 図18 調査位置図
- 図19 トレンチ配置図
- 図20 土層断面図
- 図21 出土遺物
- 図22 平成18年度調査位置図
- 松尾遺跡
- 図23 調査位置図
- 図24 トレンチ配置図
- 図25 遺構平面図・土層断面図
- 図26 2トレンチ床土出土遺物
- 図27 1トレンチ(南から)
- 図28 2トレンチ(南から)
- 図29 3トレンチ(南から)
- 東南遺跡(第23次調査)
- 図30 調査位置図
- 図31 トレンチ配置図
- 図32 土層断面図
- 図33 出土遺物
- 糸井字村ノ北
- 図34 調査位置図
- 図35 トレンチ配置図
- 図36 土層断面図
- 東保高田遺跡
- 図37 調査位置図
- 図38 トレンチ配置図
- 図39 土層断面図
- 立岡南遺跡
- 図40 調査位置図
- 図41 トレンチ配置図
- 図42 土層断面図
- 東南遺跡(第24次調査)
- 図43 調査位置図
- 図44 トレンチ配置図
- 図45 1トレンチ平面図
- 図46 1トレンチ土坑平面・断面図
- 図47 1トレンチ土坑(北から)
- 図48 土層断面図
- 図49 出土遺物(1)
- 図50 出土遺物(2)
- 図51 出土遺物(3)
- 図52 平成19年度調査位置図
- 川島遺跡
- 図53 調査位置図
- 図54 トレンチ配置図
- 図55 土層断面図

城山遺跡

- 図56 調査位置図
- 図57 トレンチ配置図
- 図58 遺構平面図
- 図59 土層断面図
- 図60 1 トレンチ(南から)
- 図61 2 トレンチ(東から)
- 図62 3 トレンチ(北から)

沖代遺跡

- 図63 調査位置図
- 図64 トレンチ配置図
- 図65 土層断面図

東南田屋

- 図66 調査位置図
- 図67 トレンチ配置図
- 図68 土層断面図

王子遺跡

- 図69 調査位置図
- 図70 試掘坪配置図
- 図71 土層断面図

斑鳩寺南遺跡

- 図72 調査位置図
- 図73 トレンチ配置図
- 図74 土層断面図

樋ノ上遺跡

- 図75 調査位置図
- 図76 トレンチ配置図
- 図77 土層断面図

矢田部遺跡

- 図78 調査位置図
- 図79 試掘坪配置図
- 図80 土層断面図

表 目 次

表 1	平成17年度調査一覧表	1
表 2	平成18年度調査一覧表	14
表 3	平成19年度調査一覧表	33
表 4	遺物観察表	53

I 平成17年度調査概要

平成17年度では、16件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が10件、公共事業に伴う確認調査が1件、公共事業に伴う立会調査が1件、区画整理事業に伴う試掘確認調査が2件である。そのうち、3箇所の民間開発事業の試掘確認調査と、1箇所の区画整理事業の試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

表1 平成17年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	備考
1	斑鳩寺遺跡 (第10次調査)	船字斑鳩寺	雨水設備整備 国庫補助事業	20	20	平成17年5月30日 ～6月11日	本書掲載
2	樋ノ上遺跡	馬場字樋ノ上	宅地造成 国庫補助事業	1662	58.8	平成17年6月20日 ～6月22日	本書掲載
3	船石田遺跡	船外前田	店舗建設 国庫補助事業	2521.78	76.2	平成17年6月27日 ～6月30日	本書掲載
4	山田畑田遺跡	山田字畑	携帯電話基地局	12	12	平成17年8月3日 ～8月5日	
5	斑鳩寺遺跡 (第11次調査)	船字斑鳩寺	雨水設備整備	81	81	平成17年9月7日 ～9月22日	
6	立岡東遺跡	立岡字小畑	宅地造成	2253	50	平成17年9月26日 ～9月30日	
7	太田字山ノ下	太田字山ノ下	宅地造成	3296.85	60	平成17年10月6日 ～10月11日	
8	春日社跡遺跡	馬場字春日	携帯電話基地局	78.86	36	平成17年10月17日 ～10月20日	
9	太田田中遺跡	太田字五反田	宅地造成	4562	50	平成17年12月12日 ～12月16日	
10	船遺跡	船字久治田	下水道	96	96	平成18年1月6日 ～1月31日	公共事業
11	竹広字前田	竹広字前田	区画整理 国庫補助事業	6397	132	平成18年1月24日 ～2月3日	本書掲載
12	船遺跡	船字久治田	立会 (県土木)	L=700m	50	平成17年12月28日 ～平成18年2月28日	公共事業
13	東保遺跡	東保字中ノ巻	宅地造成	1627	32	平成18年2月7日 ～2月10日	
14	太田字往田	太田字往田	区画整理	7757	249	平成18年2月10日 ～22日	
15	斑鳩小学校遺跡	船字斑鳩寺	小学校改築立会	13039	107	平成18年2月28日 ～3月7日	公共事業
16	東保遺跡	東保	町道立会	123	70	平成18年3月6日 ～3月8日	公共事業



図2 平成17年度調査位置図

斑鳩寺遺跡（第10次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴宇斑鳩寺709番地

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成17年5月30日～6月11日

5. 調査面積

20㎡

6. 記録作成

遺構平面図(1/20)、土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/500)

写真記録(カラーネガ35mm・デジタルカメラ撮影)

北緯(34度50分02秒)、東経(134度34分39秒)

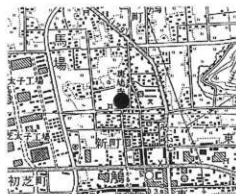


図3 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

斑鳩寺の境内において、雨水設備整備に伴う暗渠埋設工事が計画されたため、遺構の有無を確認するため調査を実施した。工事の概要は、幅約40cm、深さ約40cmの掘り方で、総延長約170mに暗渠排水管を埋設するもので、調査は参拝者等への安全上、工事の工程にあわせて実施した。調査地の標高は15.50m前後を測る。

8. 調査の概要

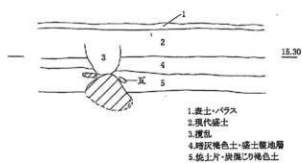
調査地の基本土層は、仁王門から講堂間では表土・バラス層(4cm)、灰褐色～暗灰褐色土・盛土整地層(10～15cm)、淡褐色土(4cm)、黄色土(4cm)、褐色～暗灰褐色砂質土(4～6cm)、焼土片・瓦碎片混じり褐色土の順に堆積している。

講堂から鐘楼間では表土・バラス層(4cm)、暗灰褐色土・盛土整地層(10～15cm)、褐色砂質土(4～8cm)、明灰色細砂質土(2cm)、明黄褐色砂質土(6～8cm)で焼土片・瓦碎片混じり褐色土の順に堆積している。

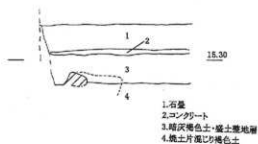
遺構は、盛土整地層直下の地表面下約30cmで角礫を用いた列石状遺構が、仁王門から講堂へ



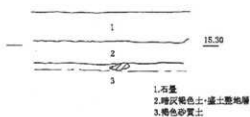
図4 トレンチ配置図(1/1,000)



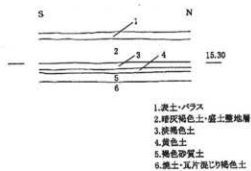
列石 1



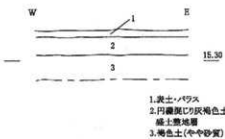
列石 2



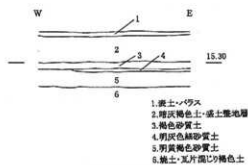
列石 3



仁王門～講堂間地点



講堂前面地点



講堂東地点

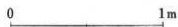


図5 遺構平面図・土層断面図

続く石畳の西側で仁王門基壇北端から5.3mの地点と、聖徳殿前面石段の直前及び、聖徳殿前面の石畳と仁王門から講堂間の石畳との交点の南側の3箇所で開催された。聖徳殿と講堂間で検出されたもの以外は、単独の石であった。また、それぞれ石畳を扶んで対応するトレンチでは石列の続きは検出されなかった。遺物は、暗灰褐色土・盛土整地層から巴紋丸瓦片1点と、焼土片・瓦砕片混じり褐色土層から土師器灯皿片3点が出土した。

9. まとめ

調査の結果、3箇所で開催される列石状遺構を検出した。遺構は、石列をなしていないが、現在の石畳の位置と重なることから、旧参拝通路に伴うものと考えられる。

土層の観察からは、表土下の暗灰褐色土・盛土整地層は土層中にガラス・プラスチック片等が含まれることから、現代のものであることが判る。その下層で、部分的ではあるが確認された黄色土層は、境内旧表土であると考えられる。また、地表面下30~40cmのレベルから確認される焼土片・瓦砕片混じり褐色土層は、天文10年(1541)の斑鳩寺焼失に起因するものと考えられる。今回限られた範囲での調査であったが、斑鳩寺境内の旧状を復原する上で貴重な資料を得ることができた。なお、検出した遺構は、埋設管の深度を変更する等の保存処置を講じた。

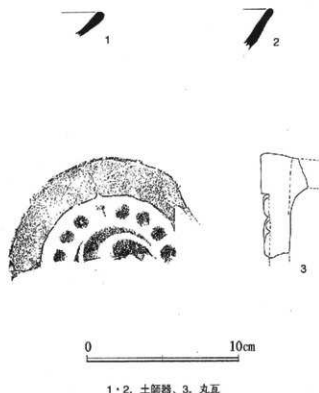


図6 出土遺物

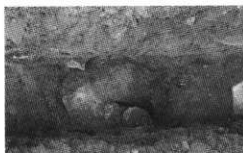


図7 石列1(東から)



図8 石列2(南から)



図9 石列3(西から)

樋ノ上遺跡

1. 遺跡の所在地
掛保郡太子町馬場字樋ノ上260番 他2筆
2. 調査機関
掛保郡太子町教育委員会
3. 調査担当者
太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸
4. 調査期間
平成17年6月20日～6月22日
5. 調査面積
58.8㎡
6. 記録作成
土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、試掘坪配置図(1/500)
写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34度50分17秒)、東経(134度34分29秒)



図10 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町馬場字樋ノ上260番他2筆において分譲宅地造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である樋ノ上遺跡の南東端部に位置し、また、馬場遺跡の北西部に隣接することから、遺構及び遺物包含層の確認を目的に確認調査を実施した。

調査地は標高16.8m前後を測り、現況は休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、3×4の試掘坪を5箇所設定して実施した。

調査地の基本土層は、耕土(24～28cm)、黄灰色土・床土(4～14cm)で明褐色砂質土ないし黄褐色砂質土の

地山となっている。各試掘坪とも遺構は検出されなかったが、No1・2坪の地山上面から弥生式土器片が合わせて3点出土した。

9. まとめ

調査の結果、遺構・遺物包含層は検出されず、遺物も流れ込みと考えられる弥生式土器片が3点出土しただけであり、今回の調査地点は樋ノ上遺跡の南東縁辺部にあたると思われる。

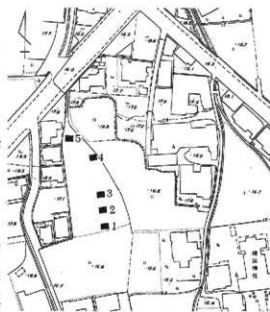


図11 試掘坪配置図(1/2,000)

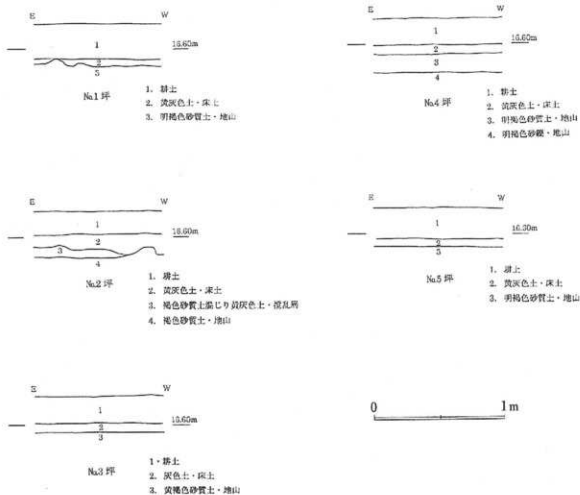
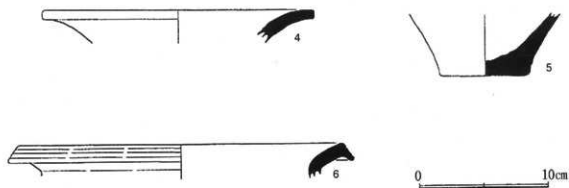


図12 土層断面図



4・5. No.1坪、6. No.2坪

図13 出土遺物

鵜石田遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鵜字外前田1321番1 他5筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成17年6月27日～6月30日

5. 調査面積

76.2㎡

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、試掘坪配置図(1/300)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分53秒)、東経(134度34分54秒)

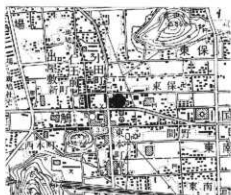


図14 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町鵜字外前田1321番1他5筆において、店舗及び整備工場の建設が計画された。建設予定地は周知の埋蔵文化財である鵜石田遺跡の包蔵地内であるため、遺構の遺存状況等を確認するため試掘確認調査を実施した。調査地は標高15.20m前後を測り、以前木材製材所の敷地であったが、現況は更地となっている。

8. 調査の概要

調査は、3×5mの試掘坪を5箇所設定して実施した。調査地の基本土層は、表土(4～10cm)、造成盛土(70cm)、旧耕土(20cm)、褐灰色土・床土(4cm)で黄褐色細砂質土ないし明褐色細砂質土の地山となっている。各試掘坪とも遺構は検出されなかったが、4箇所(No1～4)で近現代の瓦粘土採掘土坑を確認した。また、No5坪西半部では木材製材所造成時に埋め立てられた、南北方向の用水路路を確認した。遺物は1・3坪の瓦粘土採掘土坑から弥生式土器・土師器・須臾器の小片が数点出土しただけである。

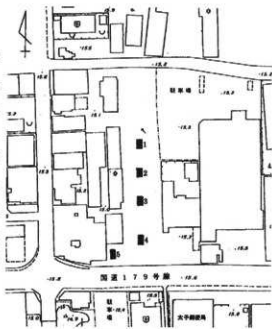
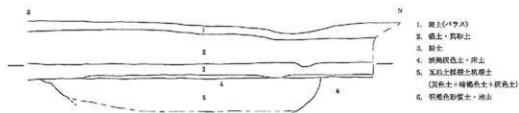
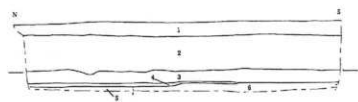


図15 試掘坪配置図(1/2,000)



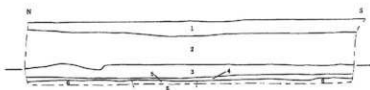
1. 黄土(バラス)
2. 礫土・真砂土
3. 埴土
4. 淡褐色土・灰土
5. 互層土(礫土・灰土)
(黄色土・緑褐色土・灰褐色土)
6. 明褐色細砂質土・地山

No.1坪



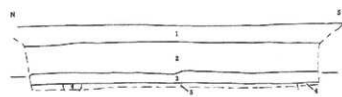
1. 黄土(バラス)
2. 礫土・真砂土
3. 埴土
4. 淡褐色土・灰土
5. 互層土(礫土・灰土)
6. 黄褐色細砂質土・地山

No.2坪



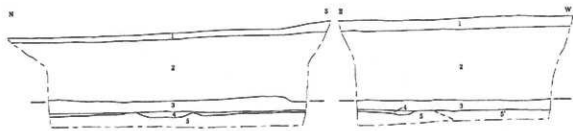
1. 黄土(バラス・アスファルト)
2. 礫土・真砂土
3. 埴土
4. 淡褐色土・灰土
5. 互層土(礫土・灰土)
6. 黄褐色細砂質土・地山

No.3坪



1. 黄土(バラス)
2. 礫土・真砂土
3. 埴土
4. 黄色土・灰土
5. 黄褐色細砂質土・地山

No.4坪



1. 黄土(バラス)
2. 礫土
3. 埴土
4. 黄色土・灰土
5. 黄褐色細砂質土・地山
6. 明褐色細砂質土・地山

No.5

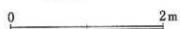
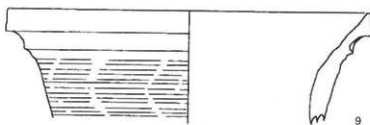
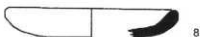
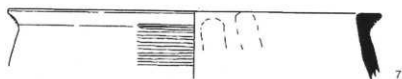


図16 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、今回の調査地点はほぼ全域にわたって近・現代の粘土採掘による攪乱を受けおり、また、耕作等による遺構面の削平も大規模に行われていることが判明した。鵜石田遺跡の中心部は、過去の調査結果等から調査地南東部に位置する太子郵便局周辺にあたると思われる。



7. 弥生式土器、8. 土師器、9. 須恵器(7・8. No1坪、9. No3坪)

図17 出土遺物

竹広字前田

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町竹広字前田195-1 他38筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成18年1月24日～2月3日

5. 調査面積

132㎡

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/500)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度48分59秒)、東経(134度34分51秒)



図18 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町竹広字前田において、竹広前田農住組合による土地区画整理事業の計画があがり、同組合から埋蔵文化財の有無について照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財の包蔵地ではないが、事前の分布調査を実施したところ、若干ではあるが弥生式土器・須恵器等の遺物の散布が認められた。教育委員会では、分布調査の結果を踏まえ、竹広前田農住組合及び、役場担当課と協議し、遺構・遺物包含層の所在の有無を確認するため、試掘確認調査を実施することにした。調査地は標高8.6～9.6mを測る畑作地で、西側が約1mの比高差を持って低くなっている。

8. 調査の概要

調査は、2×6mのトレンチ9箇所と、1×4mのトレンチ1箇所を設定して実施した。

調査地の基本土層は、耕土(14～30cm)、明黄褐色土(14～80cm)、灰褐色土ないし黄褐色土混じり灰褐色土(20～60cm)で、黄褐色土～砂質土・地山あるいは明褐色砂、礫層となっている。調査区の北西に設定したNo1トレンチは調査区中最下部に位置し、明褐色砂質土下で礫層になっている。

遺構は、各トレンチとも検出されなかったが、No



図19 トレンチ配置図(1/2,000)

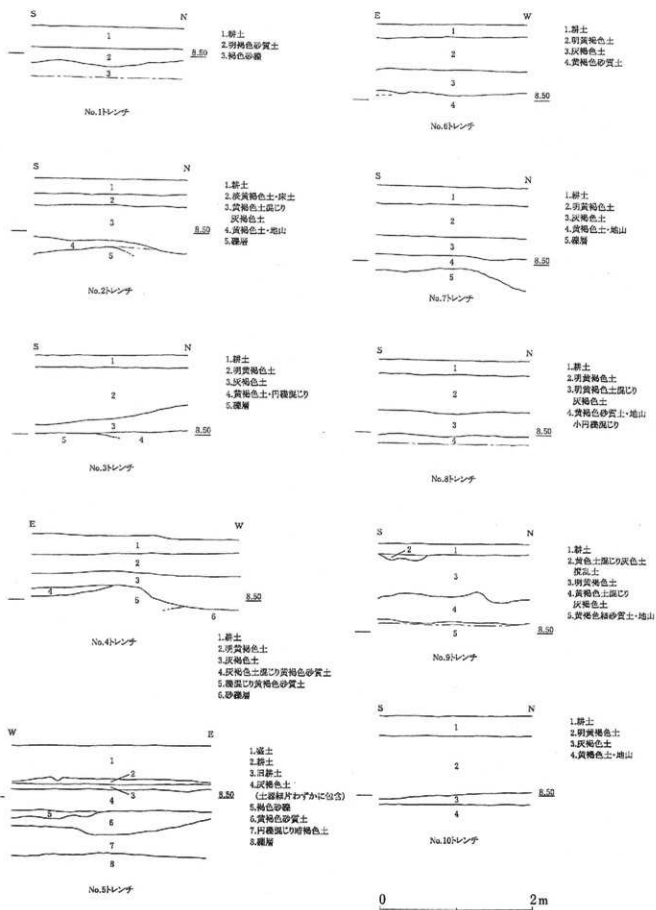


図20 土層断面図

4・5トレンチでは、南西方向への地形の落ち込み肩部が検出された。遺物は、No4・5トレンチの灰褐色土層から弥生式土器片が少量出土した。

9. まとめ

調査の結果、遺構は確認されなかったが、弥生式土器をわずかではあるが包含する灰褐色土層の堆積を確認した。近接して集落跡等の遺跡が存在する可能性が高いと考えられる。今後、周辺部の開発には注意が必要である。



10. No4坪、11. No5坪

図21 出土遺物

Ⅱ 平成18年度調査概要

平成18年度では、13件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が10件、公共事業に伴う本発掘調査が1件、分布調査が2件である。そのうち、6箇所の民間開発事業の試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

表2 平成18年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	備考
1	斑鳩小学校遺跡	鶴字斑鳩寺	校舎改築	13039	730	平成18年5月21日 ～7月14日	公共事業
2	松尾遺跡	松尾字人門	個人住宅 国庫補助事業	1361	84	平成18年7月26日 ～7月31日	本書掲載
3	東南遺跡 (第23次調査)	鶴字橋ノ内	宅地造成 国庫補助事業	2365.39	132	平成18年8月1日 ～8月9日	本書掲載 (第23次調査)
4	糸井字村ノ北	糸井字村ノ 北	宅地造成 国庫補助事業	1934.99	84	平成18年8月8日 ～8月11日	本書掲載
5	東保高田遺跡	東保字高田	宅地造成 国庫補助事業	2100	53	平成18年8月28日 ～9月1日	本書掲載
6	立岡南遺跡 (第4次調査)	立岡字山崎	宅地造成 国庫補助事業	2050.11	32	平成18年9月21日 ～9月26日	本書掲載
7	東南遺跡 (第24次調査)	鶴字橋ノ内	宅地造成 国庫補助事業	1241.80	118	平成18年10月17日 ～10月26日	本書掲載 (第24次調査)
8	東南字羽子田	東南字羽子 田	店舗建設	2121.9	18	平成18年10月27日 ～11月2日	
9	栗原遺跡	東南字栗原	宅地造成	1232.31	24	平成18年11月2日 ～11月8日	
10	吉福西遺跡周辺	吉福字宮ノ 前 他	町道工事に先 立つ分布調査			平成18年11月6日 ～11月10日	公共事業
11	川島遺跡	太田字五反 田	宅地造成	820.86	68.3	平成18年11月27日 ～11月29日	
12	上太田石垣遺跡 周辺	上太田字備 前谷 他	近代遺跡分布 調査			平成18年12月4日 ～12月8日	
13	田中遺跡	太田字ツン ボリ	宅地造成	3656.72	125	平成19年2月21日 ～2月27日	

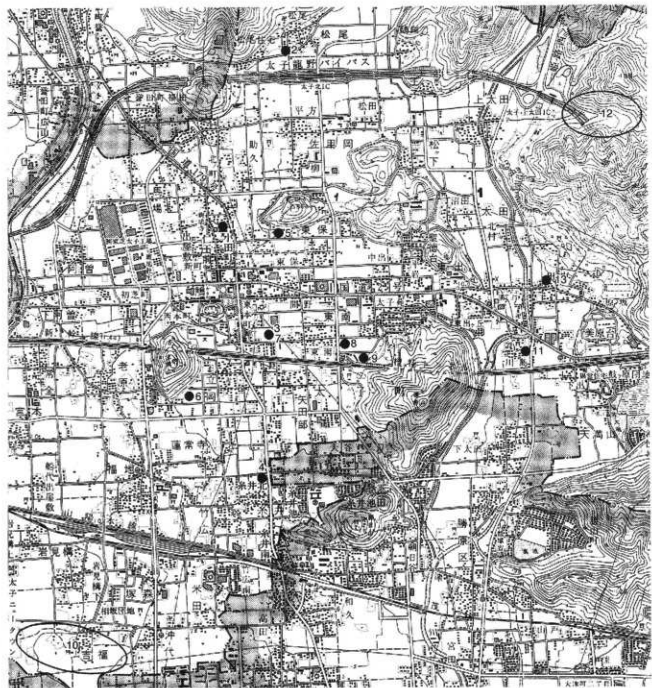


図22 平成18年度調査位置図

松尾遺跡

1. 遺跡の所在地
揖保郡太子町松尾字大門60番1・60番5
2. 調査機関
揖保郡太子町教育委員会
3. 調査担当者
太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸
4. 調査期間
平成18年7月26日～7月31日
5. 調査面積
84㎡
6. 記録作成
土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/300)
写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34度50分57秒)、東経(134度34分56秒)

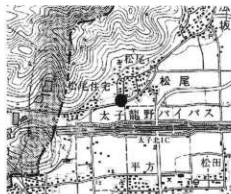


図23 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町松尾字大門60番1及び60番5において個人住宅建設の計画があがり、建設予定地は周知の埋蔵文化財である松尾遺跡の包蔵地内であるため、遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は、標高16.60m全後を測る水田であるが、現況は休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、南北に1.5×20mのトレンチ2本を設定して実施したところ、各トレンチ南端近くで溝状遺構を検出したため、調査地の東西端で溝の延長上に1.5×5mのトレンチ各1本づつを追加設定した。調査地の土層は、上層から耕土(20cm)、黄灰色土・床土(4～6cm)で黄白色土・地山となっており、地山面は、南側に緩やかに傾斜している。

検出された溝は、西端に設定した4トレンチでは耕作に伴う削平によるものか検出されなかったが、ほぼ地形の等高線に添うように南西方向に走って

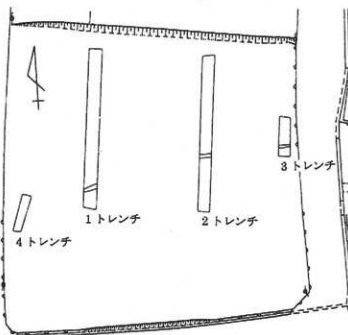


図24 トレンチ配置図(1/500)

おり、幅30~70cm、深さ20~30cmを測り、断面形は逆台形を呈する。埋土は淡褐灰色土である。遺物は、1・2トレンチの溝埋土内から土師器片と、2トレンチ床土から土師器・須恵器片が出土した。

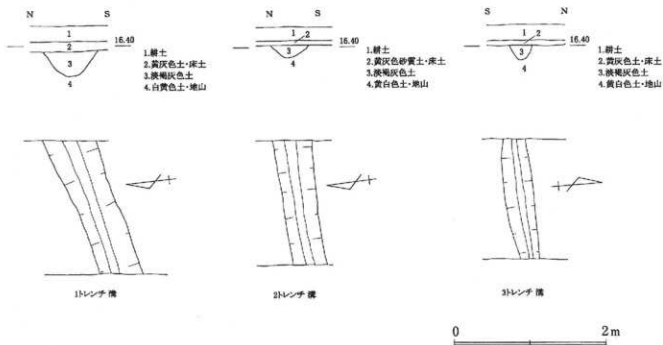


図25 遺構平面図・土層断面図

9. まとめ

調査の結果、中世と考えられる溝1条を検出するに止まった。今回の調査地点は、松尾遺跡の西側縁辺部にあたると考えられる。

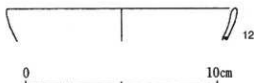


図26 2トレンチ床土出土遺物



図27 1トレンチ(南から)



図28 2トレンチ(南から)



図29 3トレンチ(南から)

東南遺跡（第23次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字構ノ内24番1・25番3

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成18年8月1日～8月9日

5. 調査面積

132m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/300)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分49秒)、東経(134度34分52秒)



図30 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町鶴字構ノ内24番1及び25番3において宅地造成の計画があがり、造成予定地は周辺の埋蔵文化財である東南遺跡の包蔵地内にあたり、平成2年度に町道建設に伴い実施した第7次調査地点の西側に隣接する水田であることから、遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は、標高12.20m全後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、南北に1.5×40mのトレンチ(1トレンチ)1本、東西に1.5×20mのトレンチ(2トレンチ)2本を設定して実施した。

調査地の土層は、上層から耕土(約20cm)、灰黄色土・床土(8～20cm)、灰褐色土(10～30cm)で黄褐色土ないし明黄褐色細砂質土の地山となっている。

1トレンチの北端部では、地山上面で縄紋土器を包含したやや砂質の黄褐色土の堆積が確認された。また、地山は南東方向に傾斜しており、1トレンチ南半では灰褐色土の下層に明褐色土(20～30cm)、黄色土(10cm)で明黄褐色細砂質土となっている。なお1トレンチ南端部で土層の断ち割りを実施したところ、

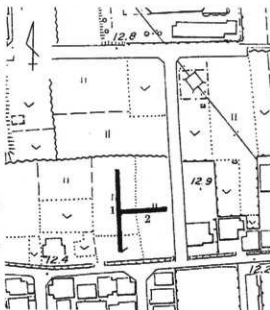


図31 トレンチ配置図(1/2,000)

明黄褐色細砂質土の下層で暗灰褐色粘質土を確認し、ボーリングステッキによる検索では1 m以上の厚みを持つことを確認した。

遺物は、1トレンチ北端で検出された包含層から縄紋土器がポリ袋(23×34cm)に2袋分が出土した。遺構は各トレンチとも検出されなかった。

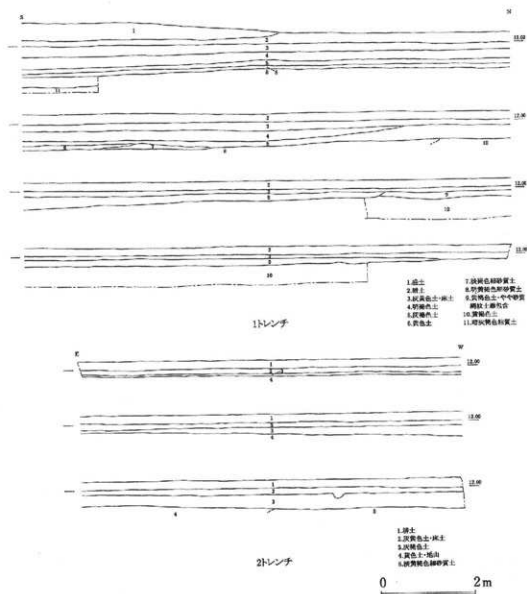


図32 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、遺構は検出されなかったが、調査地北端部で縄紋の包含層を検出した。また、調査地の旧地形が、南東方向に傾斜していることも確認された。今回の調査地点は、東南遺跡の立地する微高地の南東縁辺部にあたると思われる。

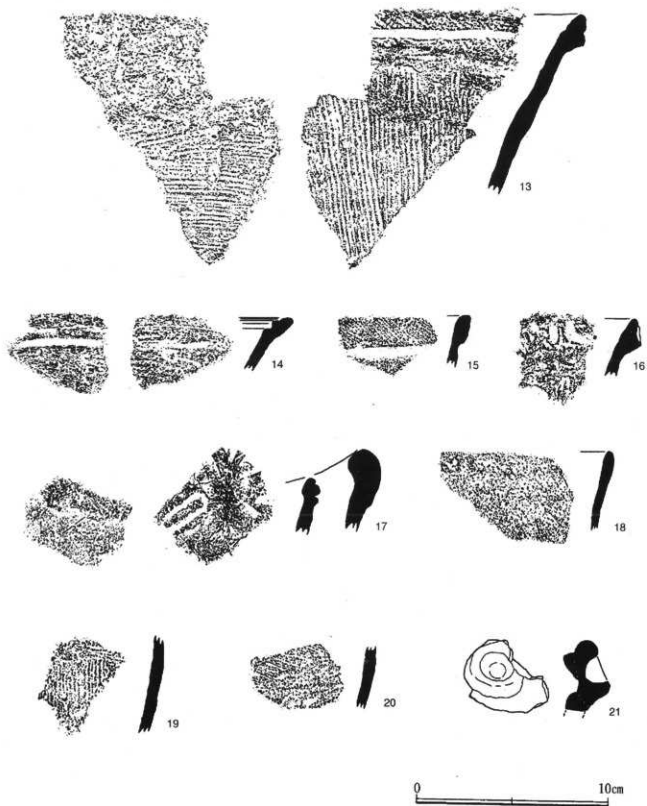


图33 出土遺物

糸井字村ノ北

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町糸井字村ノ北94-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成18年8月8日～8月11日

5. 調査面積

30.4㎡

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/400)、

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分17秒)、東経(134度34分49秒)

7. 調査に至る経過

太子町糸井字村ノ北94-1において集合住宅建設の計画があがり、建設予定地は周知の埋蔵文化財である立岡笹山遺跡の南に隣接することから、遺跡の広がりを確認するため試掘調査を実施した。調査地は標高8.70m全後を測る水田であるが、現況は休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、2×6mのトレンチ2本を設定して実施した。

調査地の土層は、1トレンチでは上層から耕土(20cm)、黄色土・床土(20cm)、黄灰色粘質土(10～18cm)、淡褐色粘質土(10～20cm)、淡褐色土(16～20cm)、灰色砂混じり褐色粘質土(20～30cm)で淡黄色細砂質土及び灰色砂となっている。2トレンチでは、上層から耕土(18cm)、黄色土・床土(20cm)、黄灰色土(20～30cm)、淡褐色粘質土(20～30cm)、灰色砂混じり淡褐色粘質土(12～30cm)、暗灰色粘質土(10～20cm)で淡黄褐色粘質土及び灰色粘質土混じり灰色砂となっている。

各トレンチとも、遺構・遺物は検出されなかった。

また、各トレンチ最下層の灰色砂層上面から比較的豊富な湧水が見られた。



図34 調査位置図(1/25,000)



図35 トレンチ配置図(1/2,000)

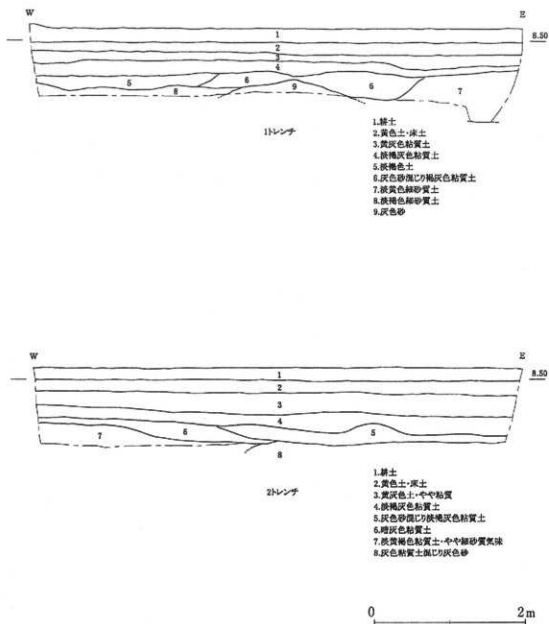


図36 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。今回の調査地点は旧河道の一部にあたると思われる、立岡笹山遺跡の範囲は及んでいないことが確認された。

東保高田遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東保字高田84番1・84番1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成18年8月28日～9月1日

5. 調査面積

53m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/300)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度50分14秒)、東経(134度34分54秒)

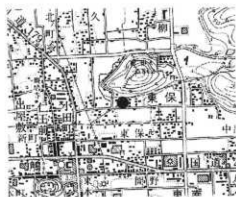


図37 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町東保字高田84番1及び84番2において宅地造成の計画があがり、造成予定地は周知の埋蔵文化財である東保高田遺跡の北西部に隣接することから、遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は、標高14.20m全後に測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、2×5mのトレンチ3本と、1.5×15mのトレンチ1本を設定して実施した。

調査地の土層は、上層から耕土(20cm)、淡褐色土・床土(4～6cm)、茶褐色土(10～40cm)、黄褐色土混じり茶褐色土(10～20cm)ないし茶褐色土混じり黄褐色土(20～30cm)で黄褐色土・地山となっている。

床土は4トレンチ南端部で確認されたが、1～3トレンチでは耕土直下で茶褐色土となっている。

1トレンチの南端で耕土直下より掘り込まれた現代の攪乱土坑を検出したが、各トレンチとも遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



図38 トレンチ配置図(1/2,000)

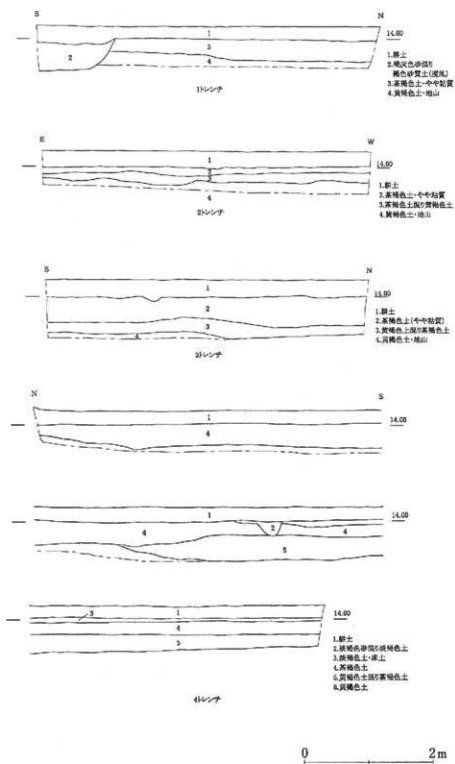


図39 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、遺構・遺物は検出されず、今回の調査地点までは東保高田遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。

立岡南遺跡（第4次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町立岡字山崎274番3、274番5

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成18年9月21日～9月26日

5. 調査面積

32m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/300)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分35秒)、東経(134度34分29秒)

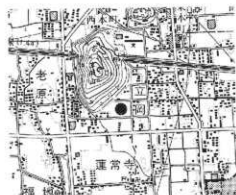


図40 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

立岡字山崎274番3及び274番5において宅地開発の計画があがり、開発予定地は周知の埋蔵文化財である立岡南遺跡の包蔵地内であるため、遺構の有無を確認するため確認調査を実施した。一帯は平成7年度にカドミウム土壤汚染による土壤改良工事に伴う確認調査が実施され、柱穴・溝等の遺構が検出されている。調査地は、標高11.10m前後を測る休耕田である。

8. 調査の概要

調査、は開発予定地内に3×4mのトレンチを4カ所設定して実施した。調査地は土壤汚染改良工事に伴う確認調査の結果から床土下の茶褐色土上面と、黄色土地山面の2面の遺構面が存在することが確認されており、今回の調査でもその点に留意しながら調査を実施した。

調査地の土層は上層から耕土(16cm、土壤汚染改良土(8～24cm)、黄灰色土(4～6cm)、灰色土(6cm)で暗黄褐色土ないし淡黄色土の地山となっている。今回の調査地点では、床土下の茶褐色土層は土壤改良に伴い漉き取られており、検出されなかった。また、地山面は北方へ緩やかに傾斜している。各トレンチとも遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



図41 トレンチ配置図(1/2,000)

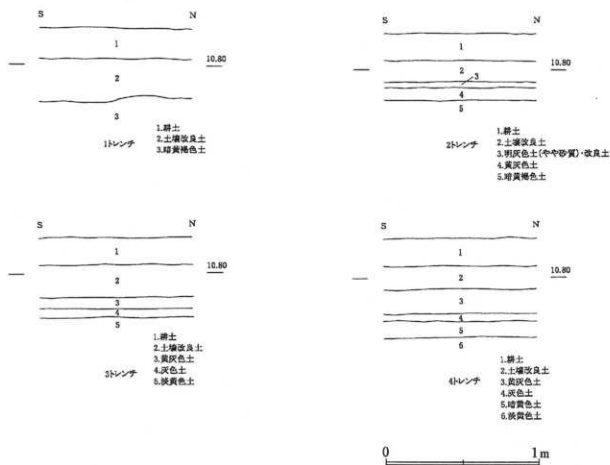


図42 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、遺構・遺物とも検出されなかった。また、今回の調査地の西隣で平成16年度に実施した3次調査の成果と同じく、地山面は北方の立岡山側へ傾斜していることが確認された。

東南遺跡（第24次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字構ノ内23番 1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成18年10月17日～10月26日

5. 調査面積

118m²

6. 記録作成

土層・遺構実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/250)

写真記録(カラー120mm・6×7版、デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分50秒)、東経(134度34分52秒)



図43 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町鶴字構ノ内23番 1 において宅地造成の計画があがり、造成予定地は周知の埋蔵文化財である東南遺跡の包蔵地内であるため、遺構を及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は、平成2年度に町道建設に伴い実施した第7次調査地点の西側に隣接する地点で、さらに第23次調査地点の北隣に位置する標高12.30m全後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、街路部分に2×40mのトレンチ1本、北及び西側の擁壁部分に1.5×5mのトレンチ4本を設定して実施した。調査地の土層は、上層から耕土(約20cm)、黄色土・床土(8～20cm)、淡灰褐色～灰茶褐色土(8～10cm)、黄褐色土・縄紋包含層(8～24cm)で黄褐色土の地山となっている。包含層の遺物の包含状況は、1トレンチ西半及び2～4トレンチの調査地北西側に多い傾向が認められた。遺構は、1トレンチの西半部で土坑を1基検出した。検出された土坑は、長径240cm、短径100cm、深さ30cmを測り、平面形は長楕円形を呈する。埋土は暗茶褐色粘質土の単一土層である。遺物は、土坑及び各トレンチの包含層か



図44 トレンチ配置図(1/2,000)

ら縄紋土器が合わせてコンテナ4箱分が出土した。

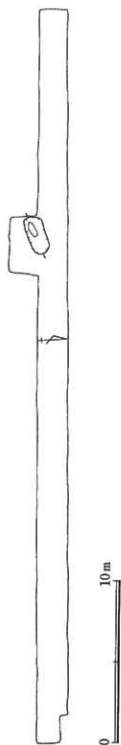


図45 1トレンチ平面図

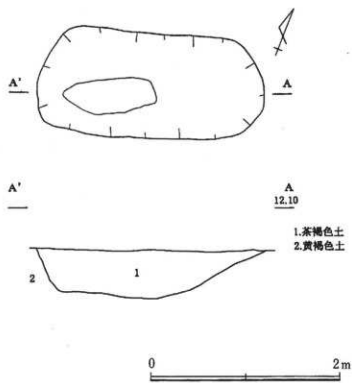


図46 1トレンチ 土坑平面・断面図



図47 1トレンチ 土坑(北から)

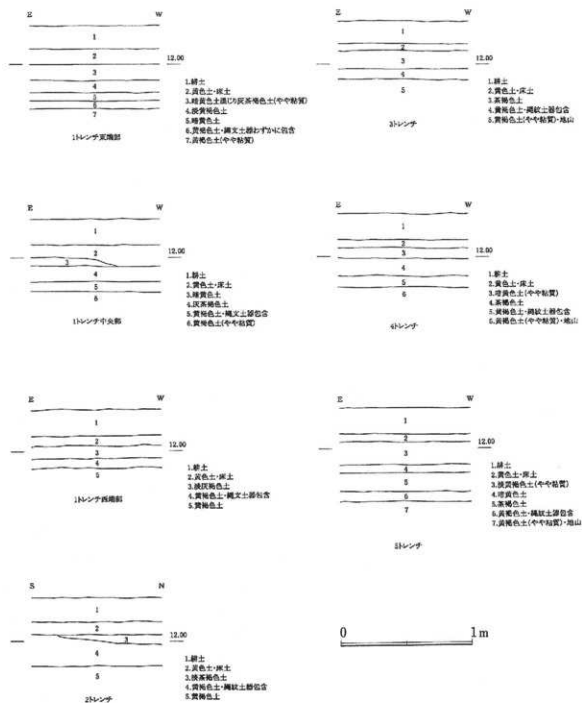
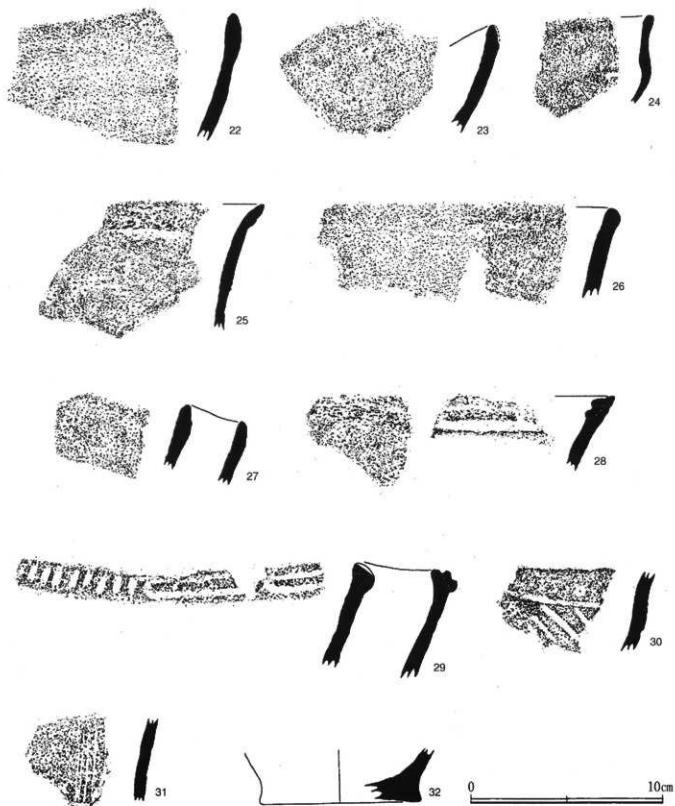


図48 土層断面図

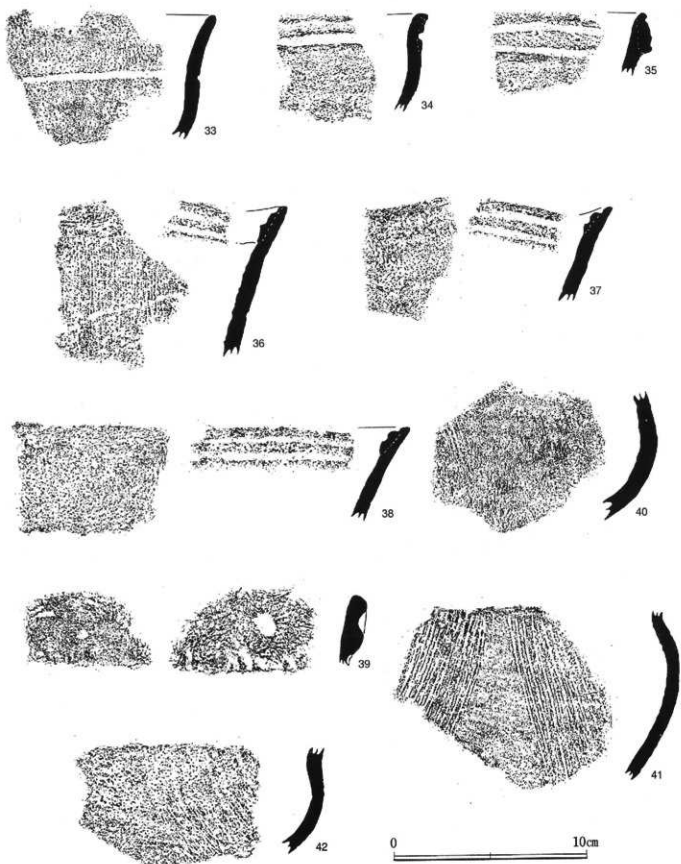
9. まとめ

調査の結果、遺物包含層は各トレンチで検出されたが、遺構は1トレンチで土坑1基を検出するに止まった。今回の調査地点は、東南遺跡の南東縁辺部にあたと考えられる。



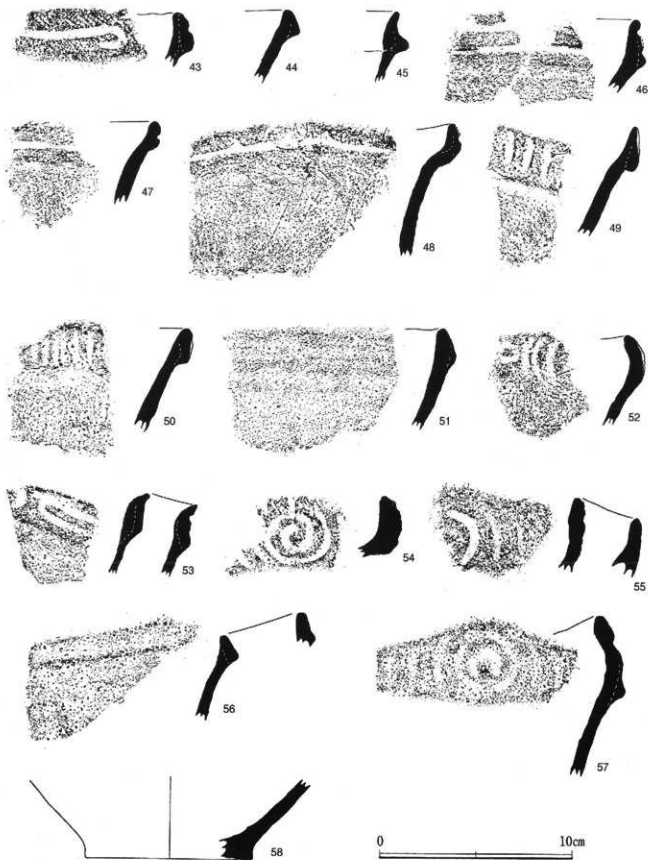
1トレンチ

図49 出土遺物(1)



1トレンチ土坑

図50 出土遺物(2)



43. 2トレンチ、44~58. 3トレンチ

図51 出土遺物(3)

Ⅲ 平成19年度調査概要

平成19年度では、10件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が9件、公共事業に伴う試掘確認調査が1件である。そのうち、9箇所の民間開発事業の試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

表3 平成19年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	備考
1	川島遺跡	太田字落久保	宅地造成 国庫補助事業	1043.96	40	平成19年5月7日 ～5月9日	本書掲載
2	城山遺跡	鷗字城山前	個人住宅 国庫補助事業	1080	115.4	平成19年5月26日 ～6月7日	本書掲載
3	神代遺跡	神代字苗代町	診療所建設 国庫補助事業	1793.07	60.4	平成19年7月4日 ～7月6日	本書掲載
4	東南字田屋	東南字田屋	宅地開発 国庫補助事業	1168.45	16	平成19年9月13日 ～9月18日	本書掲載
5	吉福西遺跡 他	吉福字ウチナウケ 他	都市計画道路 整備	16150 (950m)	177.84	平成19年10月29日 ～12月7日	公共事業
6	王子遺跡	王子字前田	個人住宅 国庫補助事業	483	23	平成19年11月19日 ～11月21日	本書掲載
7	斑鳩寺南遺跡	鷗字秋貞 他	店舗建設 国庫補助事業	3504.13	75	平成19年11月26日 ～11月29日	本書掲載
8	樋ノ上遺跡	馬場字樋ノ上	宅地造成 国庫補助事業	6321.74	121	平成20年1月9日 ～1月15日	本書掲載
9	矢田部遺跡	矢田部字南角	宅地造成 国庫補助事業	3945	41	平成20年1月21日 ～1月25日	本書掲載
10	桶遺跡	東保字高田	宅地造成 国庫補助事業	880	110.49	平成20年2月27日 ～3月4日	本書未掲載

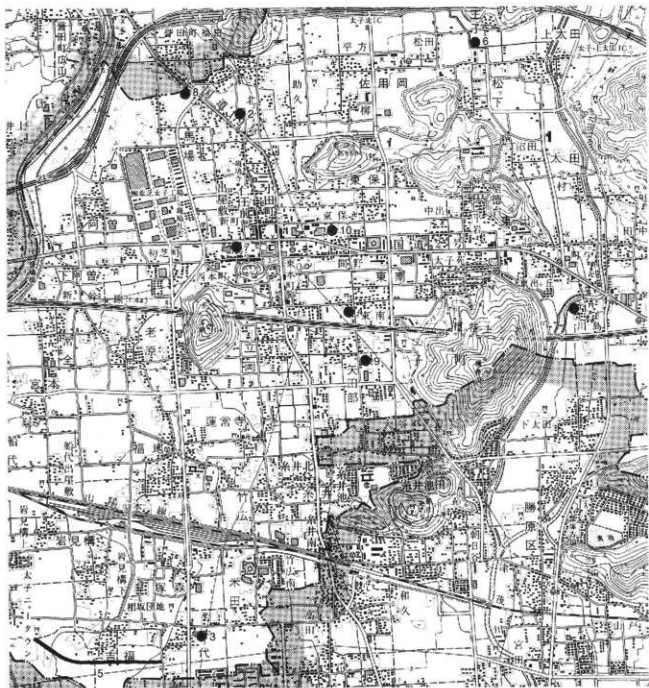


図52 平成19年度調査位置図

川島遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町太田字落久保1897番地

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成19年5月7日～5月9日

5. 調査面積

40m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/200)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分74秒)、東経(134度35分59秒)



図53 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町太田字落久保1897番地において長屋住宅建築の計画があがり、建築予定地は周知の埋蔵文化財である川島遺跡の北西部に隣接することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は、南流する大津茂川が川島集落の北を西に迂回して、また南に向きを変える部分の南東岸に位置し、標高8.60m全後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、2×5mのトレンチ4本を設定して実施した。

調査地の土層は、上層から耕土(20cm)、明黄色細砂質土(30～40cm)、明灰色粘質土(10cm)、明褐色砂混じり淡灰色粘質土(20～24cm)、灰色粘質土(10～30cm)で明褐色砂あるいは青灰色細砂質粘土となっている。

2トレンチでは青灰色細砂質粘土(10～40cm)の下層で褐色砂礫となっており、砂礫層は西側の大津茂川方向へ傾斜しているのが確認された。また、調査地西端に設定した3トレンチでは河道状の堆積状況を呈しており、最下層の青灰色細砂質粘土層はボーリングステッキでの検索の結果、1m以上の厚みがあることが確認された。

遺物は、1・2トレンチの砂層及び砂礫層上面で、流

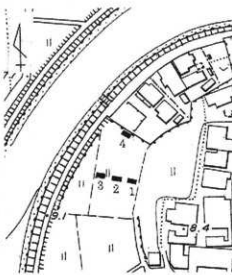


図54 トレンチ配置図(1/2,000)

れ込みによる弥生式土器・土師器・須恵器片が少量出土しただけである。遺構は、各トレンチとも検出されなかった。

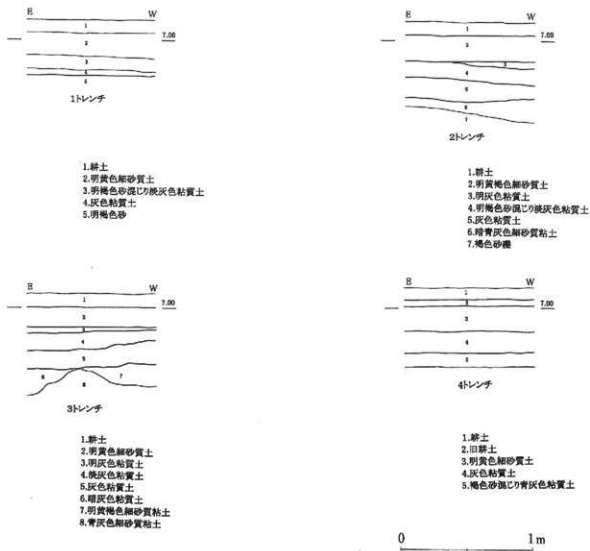


図55 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、今回の調査地点では遺構面を形成する黄色土の地山面は確認されず、遺構は検出されなかった。遺物も流れ込みと考えられるものが少量出土しただけである。土層の観察からも今回の調査地点は大津茂川の旧流路内に位置すると考えられ、川島遺跡の範囲は及んでいないことが確認された。

城山遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字城山前1002番1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成19年5月23日～6月5日

5. 調査面積

115.4㎡

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/200)

写真記録(デジタルカメラ撮影、カラーリバーサル35mm、カラー120mm・6×7判)

北緯(34度50分29秒)、東経(134度34分33秒)

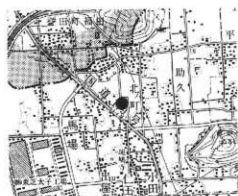


図56 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町鶴字城山前1002番1において個人住宅建築の計画があがり、建築予定地は周知の埋蔵文化財である城山遺跡の包蔵地内に位置し、建設予定地の北側で実施された町道改良工事に伴う発掘調査では、古墳時代の住居跡を含む遺構が検出されているため、遺構及び遺物包含層の広がりを確認するため確認調査を実施した。調査地は標高8.60m全後を測り、現況は休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、建築予定の建物が木造二階建てで、建物の基礎自体は造成盛土内での掘削に止まることから施工者と協議し、掘削深度が遺跡に影響を及ぼす恐れのある西・北・東側の三方の土塀施工部分について、トレンチを設定して実施した。

1 トレンチ

西側土塀施工部分に設定したトレンチで、土層は、上層から耕土(20cm)、黄色土・床土(30～40cm)で黄色土・地山となっている。トレンチ南端部では地山面は南側へ傾斜しており、暗褐色土が堆積している。

遺構は、土坑8基、ピット9基を検出した。検出した



図57 トレンチ配置図(1/2,000)

土坑には住居跡の可能性の考えられるものが2基含まれる。遺物は、土坑から土師器・須恵器、南端で検出された暗褐色土から弥生式土器・土師器・須恵器が出土した。

2 トレンチ

北側土塀施工部分に設定したトレンチで、土層は、上層から耕土(20~26cm)、黄色土・床土(4~6cm)で黄色土・地山となっている。遺構は、土坑6基、溝2条、ピット4基を検出した。検出した土坑には住居跡の可能性の考えられるものが1基含まれる。遺物は、土坑・溝から土師器・須恵器が出土した。

3 トレンチ

東側土塀施工部分に設定したトレンチで、土層は、上層から耕土(24cm)、黄色土・床土(4~6cm)、褐灰色細砂質土(20cm)、茶褐色土(20~40cm)で黄色土・地山となっている。トレンチ南部では、1トレンチと同じく南側に傾斜しており、茶褐色土の下層に暗褐色土が堆積している。遺構は、トレンチ北端で土坑1基、溝1条、ピット7基を検出した。遺物は、土坑・溝から土師器・須恵器、褐灰色細砂質土から土師器・須恵器・輸入磁器、南端の暗褐色土から弥生式土器・土師器・須恵器が出土した。

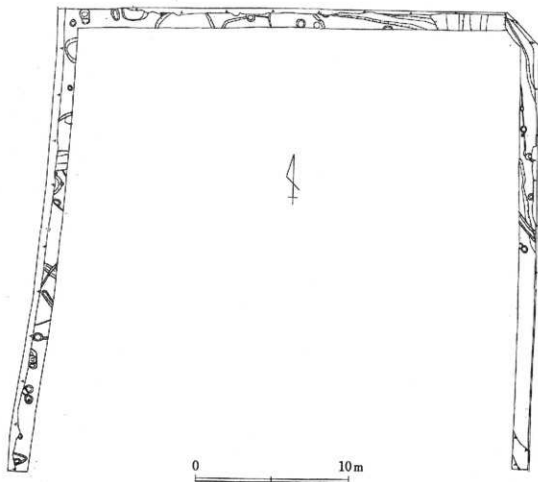


図58 遺構平面図

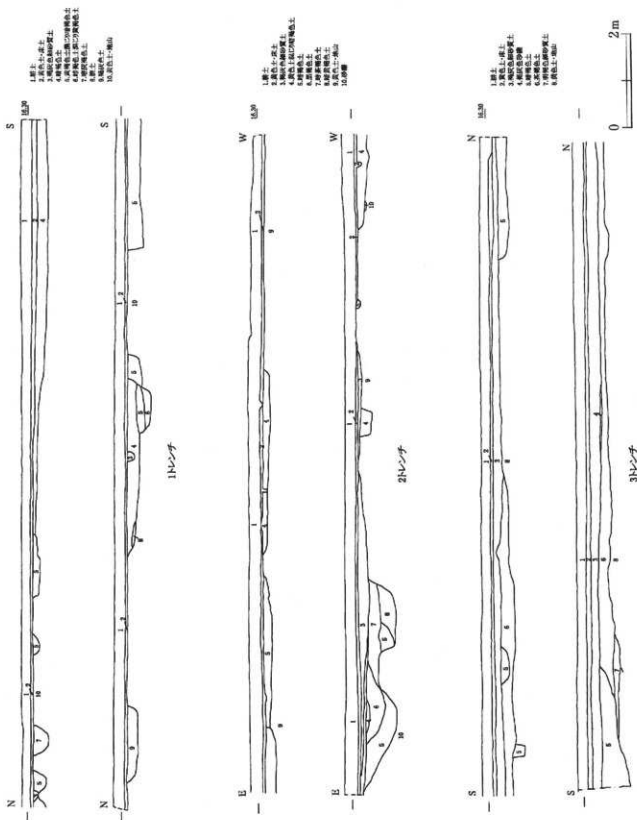


図59 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、周辺部での調査成果と同じく古墳時代を中心とした遺構が確認された。限られたトレンチ調査のため遺構の全容を把握できるものはなかったが、検出された土坑の中には住居跡と考えられるものが3基含まれた。また、今回の調査ではトレンチ1の南端及びトレンチ3の南半で地山面が南側へ落ち込んでいることが確認された。今回、限られた範囲での調査であったが、調査地点は城山遺跡の立地する微高地の南端部に位置するものと考えられ、城山遺跡の範囲を把握する上で貴重な資料を得ることができた。



図60 1トレンチ (南から)



図61 2トレンチ (東から)



図62 3トレンチ (北から)

沖代遺跡

1. 遺跡の所在地
揖保郡太子町沖代字苗代町158-3番地 他4筆
2. 調査機関
揖保郡太子町教育委員会
3. 調査担当者
太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸
4. 調査期間
平成19年7月4日～7月6日
5. 調査面積
64㎡
6. 記録作成
土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/200)
写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34度48分37秒)、東経(134度34分20秒)



図63 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町沖代字苗代町158-3番地他4筆において診療所建築の計画があがり、建築予定地は周知の埋蔵文化財である沖代遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地周辺は標高6.20m全後を測る水田であるが、調査地は約90cmの造成が行われ、更地となっている。

8. 調査の概要

調査は、2.5×4mのトレンチ6本を設定して実施した。

調査地の土層は、上層から造成盛土(80～90cm)、旧耕土(4～10cm)、黄色土・床土(6～10cm)で明褐色土・地山となっているが調査地東側に設定した4～6トレンチでは、黄色土・床土下層に淡褐灰色砂質土(10～30cm)が堆積して明褐色土・地山となっており、地山面は東側へ傾斜していくことが確認された。

各トレンチとも遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。

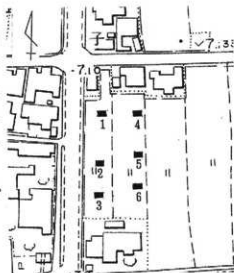


図64 トレンチ配置図(1/2,000)

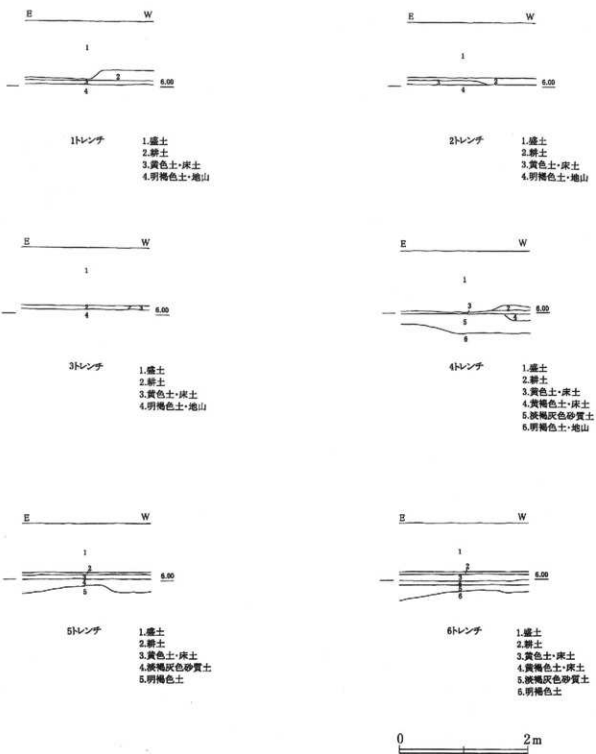


図65 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、沖代遺跡に関連する遺構・遺物は確認されなかった。今回の調査地は、沖代遺跡の立地する微高地の東側の縁辺部に位置するものと考えられる。

東南字田屋

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東南字田屋99番1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成19年9月13日～9月18日

5. 調査面積

16m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/250)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分46秒)、東経(134度35分1秒)

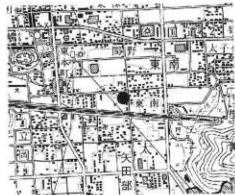


図66 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町東南字田屋99番1において宅地開発の計画があがり、開発予定地は周知の埋蔵文化財の包蔵地外であるが、北西約200mの地点に周知の埋蔵文化財である東南遺跡が所在し、また南東約200mの地点には同じく矢田部遺跡が所在することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため試掘調査を実施した。調査地は、標高11.70m全後を測り、以前は個人住宅であったが、現況は更地となっている。

8. 調査の概要

調査は、2×4mのトレンチを2箇所設定して実施した。

調査地の土層は、上層から碎石(6～10cm)、旧表土(20cm)、旧宅地整地土(16～60cm)、淡灰黄色土(10cm)、暗褐色土・淡灰黄色土混じり黄褐色砂質土(20～30cm)で黄褐色砂質土・地山となる。各トレンチとも、遺構及び遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

調査地全域は、以前の宅地当時に削平及び造成が行われていることが確認された。

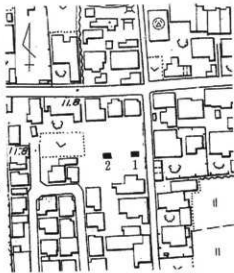


図67 トレンチ配置図(1/2,000)

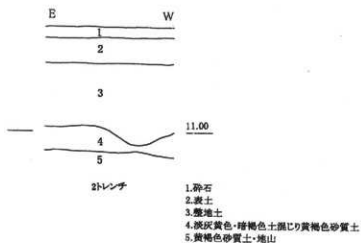
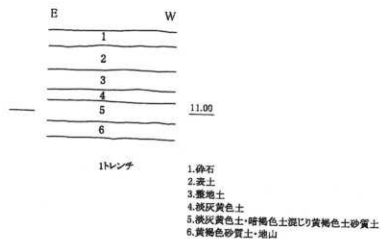


図68 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、東南、矢田部両遺跡に関連する遺構及び遺物は検出されず、今回の調査地点までは両遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。

王子遺跡

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町王子字前田154番1

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成19年11月19日～11月21日

5. 調査面積

23m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/200)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度50分43秒)、東経(134度35分33秒)



図69 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町王子字前田154番1において個人住宅建設の計画があがり、建設予定地は周知の埋蔵文化財である王子遺跡の西側に近接することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため試掘調査を実施した。調査地は、標高12.60m全後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、1.5×3mの試掘坪を4箇所設定して実施した。

調査地の土層は、上層から耕土(18cm)、淡褐色灰色土・床土(20cm)、明灰色粘質土(20～60cm)、淡褐色細砂質土混じり灰色細砂質土～粘質土ないし灰色粘質土混じり明黄色細砂質土(10cm)で明黄色細砂質土・地山となっているが、調査地北東部に設定した2坪では最下層で暗灰色細砂質土となっており、ボーリングステッキによる検索では約80cm下で青灰色気味になることが確認された。

各坪とも、遺構及び遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

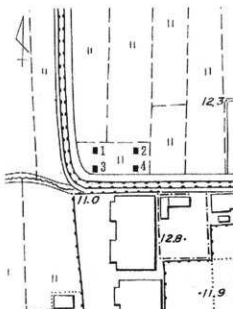
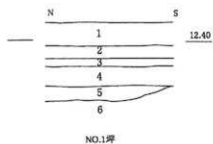
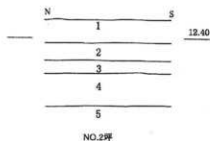


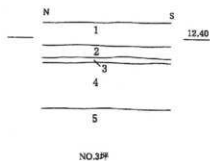
図70 試掘坪配置図(1/2,000)



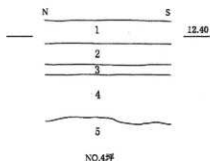
- NO.1P
- 1.耕土
 - 2.淡褐色土・床土
 - 3.明灰色粘質土
 - 4.淡褐色細砂質土混じり灰色土
 - 5.暗灰色細砂質土
 - 6.明黄色細砂質土



- NO.2P
- 1.耕土
 - 2.淡褐色土・床土
 - 3.明灰色粘質土
 - 4.淡褐色細砂質土混じり灰色粘質土
 - 5.暗灰色細砂質粘土
※約80cmで青灰色気味になる



- NO.3P
- 1.耕土
 - 2.淡褐色土・床土
 - 3.明灰色粘質土
 - 4.明黄色細砂質土・地山
 - 5.明褐色粗砂



- NO.4P
- 1.耕土
 - 2.淡褐色土・床土
 - 3.明灰色粘質土
 - 4.灰色粘質土混じり明黄色細砂質土
 - 5.明黄色細砂質土・地山

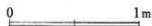


図71 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、今回の調査地点では王子遺跡に関連する遺構・遺物は検出されず、同遺跡の範囲は及んでいないことが確認された。

斑鳩寺南遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶯字秋貞443番の一部 他11筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成19年11月26日～11月29日

5. 調査面積

75m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度50分1秒)、東経(134度34分32秒)



図72 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町鶯字秋貞443番の一部他11筆において店舗建設の計画があがり、建設予定地は周知の埋蔵文化財である斑鳩寺南遺跡の南に隣接することから、遺跡の広がりを確認するため試掘調査を実施した。調査地の現況は盛土造成され標高14.60m全体を測る畑及び果樹園であるが、以前は水田であった。

8. 調査の概要

調査は、3×5mのトレンチを5箇所設定して実施した。

調査地の土層は、調査地北西端に設定した1トレンチでは上層から表土(34cm)、造成盛土(70cm)、旧耕土(18cm)、黄色土・床土(4cm)で黄褐色粘質土・地山となっていたが、2～5トレンチでは、上層から表土(22～26cm)、造成盛土(64～88cm)、旧耕土(10～16cm)、灰褐色粘質土(32～44cm)、暗灰色粘質土となっている。暗灰色粘質土はボーリングステッキでの検索の結果、1m以上の厚みがあることが確認された。各トレンチとも、遺構は検出されなかったが、4トレンチの暗灰色粘質土から、弥生式土器及び須恵器の小片が少量出土した。



図73 トレンチ配置図(1/2,000)

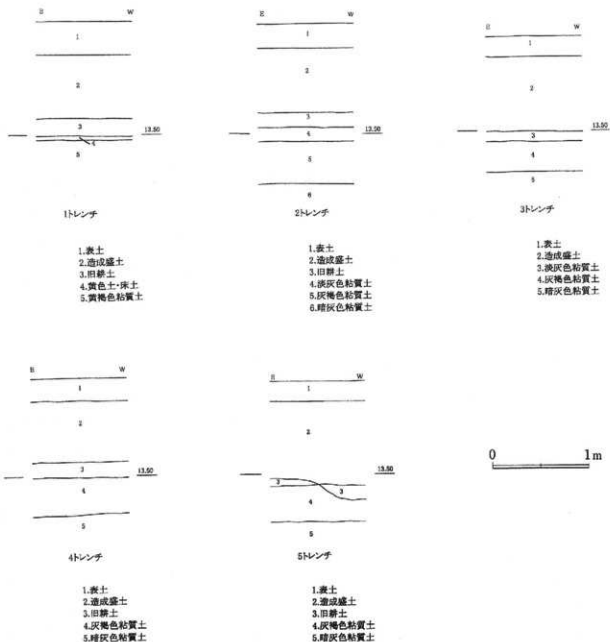


図74 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、斑鳩寺南遺跡に関連する遺構は検出されず、土層の堆積状況から今回の調査地点は斑鳩寺南遺跡の立地する微高地から埋没旧河道へ移行する肩部に位置すると考えられ、同遺跡の範囲は及んでいないことが確認された。

樋ノ上遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町馬場字樋ノ上271番11 他13筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成20年1月9日～1月15日

5. 調査面積

121m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、試掘坪配置図(1/500)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度50分32秒)、東経(134度34分19秒)

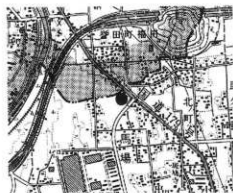


図75 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町馬場字樋ノ上271番11他において宅地造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である樋ノ上遺跡の包蔵地内であることから、遺構及び遺物包含層の確認を目的に確認調査を実施した。

調査地は標高16.00～16.80m前後を測る水田で、調査地西端の水田は標高16.00mを測り低くなっている。また、一部は盛土造成が実施されている。

8. 調査の概要

調査は、3×4のトレンチを10箇所設定して実施した。

調査地の基本土層は、上層から耕土(14～20cm)、黄灰色土ないし黄色土・床土(6～18cm)で淡褐色砂質土ないし明褐色砂質土の地山となっているが、2～4トレンチでは床土下層で褐色灰色土(14～30cm)が堆積している。各トレンチとも遺構は検出されなかったが2トレンチの褐色灰色土から弥生式土器と須恵器の小片が合わせて3点出土した。

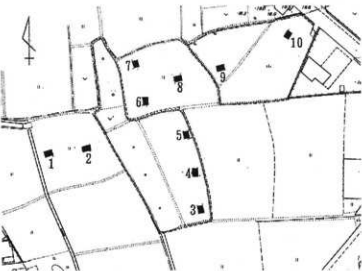


図76 トレンチ配置図(1/2,000)

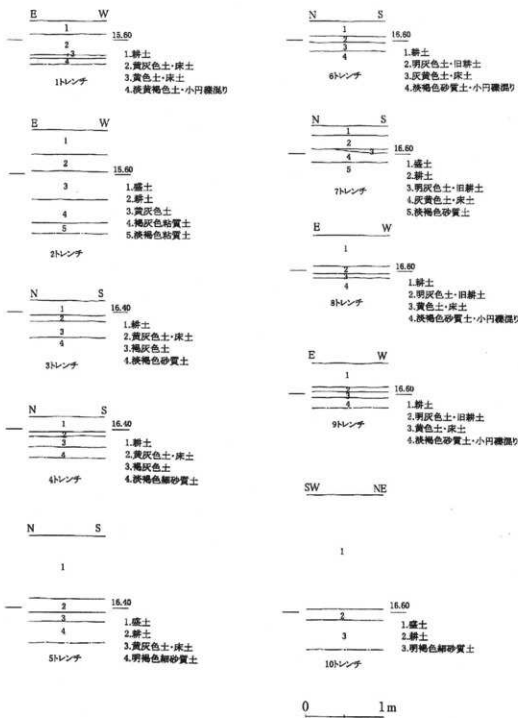


図77 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、遺物も2トレンチから弥生式土器と須恵器の小片が3点出土しただけであり、樋ノ上遺跡に関連する遺構は検出されなかった。

今回の調査地点は、樋ノ上遺跡の立地する微高地の北西縁辺部に位置すると考えられる。

矢田部遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町矢田部字南角329番1 他2筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成20年1月21日～1月25日

5. 調査面積

41m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、試掘坪配置図(1/500)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分36秒)、東経(134度35分5秒)



図78 調査位置図(1/25,000)

7. 調査に至る経過

太子町矢田部字南角329番1他において宅地造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である矢田部遺跡の包蔵地内であることから、遺構及び遺物包含層の確認を目的に確認調査を実施した。

調査地は標高10.50m前後を測る水田であるが、調査地西側の一部は以前に盛土造成が実施され露天駐車場として利用されている。

8. 調査の概要

調査は、2×2の試掘坪を10箇所設定して実施した。

調査地の基本土層は、上層から耕土(16～40cm)、黄灰色土ないし黄色土・床土(6～10cm)で淡褐色ないし茶褐色砂質土の地山となっているが、南端部に設定した5・6・10坪では床土下層で褐色土(4～40cm)が堆積しており、地山面は南西方向に緩やかに傾斜していることが確認された。

各試掘坪とも遺構は検出されなかったが、遺物は、5・6・10坪の褐色土から土師器と須恵器の小片が出土した。

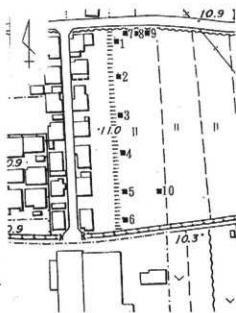


図79 試掘坪配置図(1/2,000)

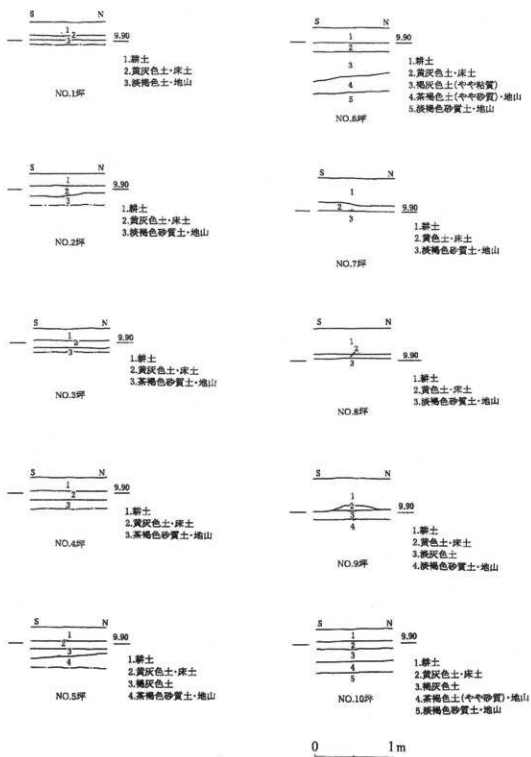


図80 土層断面図

9. まとめ

調査の結果、遺物も南部に設定した試掘坪から土師器と須恵器の小片が数点出土しただけであり、矢田部遺跡に関連する遺構は検出されなかった。今回の調査地点は、矢田部遺跡の南縁辺部に位置すると考えられる。

表4 遺物観察表

番号	遺跡名	出土地点	個別 品類	遺物番号	法 量(cm)			検 成	色 調	胎 土	観 覧
					口 径	口 縁 高	底 径				
1	根崎中遺跡	仁三門北東	土師器 皿	0001-1-1				良好	外 5YR5/6 黄 内 5YR5/6 黄	黄	外内 ナズ
2	"	仁三門北東	土師器 皿	0001-1-2				良好	外 7.5YR7/4 黄-黄 内 7.5YR6/3 黄-黄 内 7.5YR4/4 黄黄	黄緑色を含む	外内 黒緑ナズ
3	"	渡辺東側	土師器 鉢	0001-2-2				良好	外 N8 灰 内 N8 灰	黄緑色を含む	右回り片取
4	樋ノ上遺跡	N4 坪	弥生 土師器 壺口縁	0002-1-1	21.2			やや甘い	外 5YR5/6 黄赤黄-7.5YR7/4 黄-黄 内 7.5YR6/4 黄黄	緑色を含む	外内 濃緑色しいが黒毛目が見える
5	"	"	弥生 土師器 壺口縁	0002-1-2	25.0			良好	外 5YR4/2 黄赤-5YR5/3 黄-赤黄 内 5YR4/2 黄赤-5YR5/3 黄-赤黄	黒色を含む	外内 黒ナズ
6	"	N4.2 坪	弥生 土師器 壺	0002-2-1		6.8		良好	外 5YR6/4 黄-黄-5YR5/1 黄赤 内 7.5YR7/2 黄黄	2 cm程度の 黒毛目を含む	外内 ナズ
7	林石田遺跡	N4.1 坪	弥生 土師器 壺口縁	0003-1-1	17.6			良好	外 5YR6/6 黄 内 5YR6/2 黄白	2-3mm程度の 黒毛目を含む	外 黄緑色と濃緑色 内 濃緑色しい
8	"	"	土師器 小皿	0003-1-2	9.0			良好	外 7.5YR7/4 黄-黄 内 7.5YR7/4 黄-黄	黄	外内 ナズ
9	"	N4.8 坪	弥生前期 土師器 壺口縁	0003-2-1	19.0			良好	外 N3 黄赤 内 N5.5 灰	黄緑色を含む	外 赤毛目 内 約50自然片付
10	竹三平遺跡	N4 坪	弥生 土師器 壺口縁	0005-1-1	10.0			やや甘い	外 7.5YR7/6 黄-7.5YR7/6 黄赤 内 10YR8/6 黄赤	2 cm程度の 赤毛目を含む	外 3線4条の区線
11	"	N4.5 坪	弥生 土師器 壺	0005-1-2		6.3		良好	外 10YR7/3 黄-黄赤 内 7.5YR6/4 黄黄赤	2 cm程度の 赤毛目を含む	外 ナズ 内 へら削り黒ナズ
12	松尾遺跡	2 トレンチ 床上	弥生前期 土師器 壺	0002-1-1	12.0			良好	外 N7 灰白 内 N8 灰	黒色を含む	外内 黒緑ナズ
13	東海遺跡(24次)	1 トレンチ 北側の穴倉	縄文 土師器 深鉢	0004-1-1				良好	外 7.5YR4/3 黄-7.5YR7/1 黄赤 内 7.5YR2/1 黄	1-2mm程度の 黒毛目を含む	外 縦方向の条痕、口縁部と縁部 内 縦方向の条痕
14	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-2				良好	外 10YR7/2 黄-黄赤 内 10YR7/1 黄白	2-3mm程度の 黒毛目を含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗、2条の区線
15	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-3				良好	外 7.5YR4/3 黄 内 7.5YR7/1 黄赤	2-3mm程度の 黒毛目を含む	外 口縁部磨耗 内 磨耗のため不明
16	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-4				良好	外 7.5YR4/3 黄 内 7.5YR7/1 黄赤	2-4mm程度の 黒毛目を含む	外 縦方向の条痕、口縁部と縁部 内 磨耗のため不明
17	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-5				良好	外 7.5YR7/4 黄-黄 内 7.5YR7/4 黄-黄	黒毛目を含む	外 磨耗、口縁部と縁部 内 ナズ
18	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-6				やや甘い	外 10YR7/2 黄-黄赤 内 10YR7/1 黄赤	赤、黒毛目 を含む	外内 磨耗のため不明
19	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-8				やや甘い	外 10YR1 黄赤 内 10YR2/2 黄-黄赤	1-2mm程度の 黒毛目を含む	外 縦方向の条痕 内 磨耗のため不明
20	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-7				やや甘い	外 7.5YR4/2 黄赤 内 7.5YR7/1 黄赤	1-2mm程度の 黒毛目を含む	外 口縁部 内 ナズ
21	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-9				やや甘い	外 10YR4/1 黄赤 内 10YR4/1 黄赤	白毛目が多く 含む	外 磨耗して黄赤、黄赤文 内 磨耗のため不明
22	東海遺跡(24次)	1 トレンチ	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-1				やや甘い	外 7.5YR7/2 黄白-7.5YR6/3 黄-黄 内 5YR5/6 黄 内 10YR7/1 黄白-10YR7/2 黄-黄赤	2-3 mm程度の 黒毛目を含む	外内 磨耗のため不明
23	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-3				甘い	外 10YR4/1 黄赤 内 10YR7/1 黄赤	2 mm程度の 赤毛目を含む	外内 磨耗のため不明
24	"	"	縄文 土師器 鉢口縁	0004-1-4				甘い	外 5YR6/3 黄-赤黄-10YR5/3 黄- 黄赤-10YR7/1 黄赤 内 10YR7/1 黄赤-10YR7/2 黄-黄赤	黒毛目、赤毛目 を含む	外内 磨耗のため不明

番号	遺 跡 名	出土地点	種別 説明	遺物番号	法 量(cm)			集成	色 割	胎 土	調 整
					口径	器高	底径				
25	東海遺跡24-05	1 トレンチ	陶器 鉢口縁	0004-16				外 7.5YR40 5号 内 7.5YR42 5号-6号	2mmの小石、 磁鉄粉多く含む	内外 磨耗のため不明	
26	"	"	陶器 鉢口縁	0004-18				外 10YR53 赤い遺物 内 10YR52 赤い-2	2mmの小石、 磁鉄粉多く含む	内外 磨耗のため不明	
27	"	"	陶器 鉢口縁	0004-17				外 10YR41 赤K 内 10YR31 赤K	2mmの小石、 磁鉄粉多く含む	内外 磨耗のため不明	
28	"	"	陶器 鉢口縁	0004-19				外 7.5YR42 赤黄 内 2.5YR1 黒黄	白色磁鉄粉多く 含む	外 磨耗のため不明 内 口縁部突起	
29	"	"	陶器 鉢口縁	0004-15				外 7.5YR52 赤黄-7.5YR42 赤黄 内 7.5YR31 赤黄	2-4mmの小 石、磁鉄粉多く 含む	外 磨耗のため不明、口縁部突起 目、2条の沈線 内 磨耗のため不明	
30	"	"	陶器 鉢口縁	0004-12				外 5YR20 赤-7.5YR26 赤 内 10YR62 灰黄緑	磁鉄粉多く含む	外 沈線文 内 磨耗のため不明	
31	"	"	陶器 鉢口縁	0004-110				外 10YR55 赤い-黄緑 内 10YR41 赤K	磁鉄粉多く含む 空白含む	外 縦方向の沈線文 内 ナブ	
32	"	"	陶器 鉢口縁	0004-111				外 5YR56 赤 内 7.5YR41 赤黄-7.5YR55 赤い-黄	空白含む、磁鉄 粉多く含む	内外 磨耗のため不明	
33	"	1 トレンチ 土坑	陶器 鉢口縁	0004-21				外 7.5YR60 赤 内 7.5YR42 赤黄-7.5YR74 赤い-黄	2mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 ナブ、1条の沈線文 内 ナブ	
34	"	"	陶器 鉢口縁	0004-22				外 10YR64 赤黄-10YR41 赤K 内 10YR26 黄緑	2-3mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 ナブ、1条の沈線文 内 ナブ	
35	"	"	陶器 鉢口縁	0004-23				外 10YR65 赤黄緑 内 10YR69 赤黄緑	2-3mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 口縁部突起と2条の沈線文 内 磨耗のため不明	
36	"	"	陶器 鉢口縁	0004-25				外 10YR42 赤黄緑 内 10YR31 赤黄	2-3mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 縦方向の沈線 内 口縁部突起と2条の沈線文	
37	"	"	陶器 鉢口縁	0004-27				外 10YR42 赤黄緑 内 10YR31 赤黄	2-3mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 縦方向の沈線 内 口縁部突起と2条の沈線文	
38	"	"	陶器 鉢口縁	0004-26				外 10YR42 赤黄緑 内 10YR31 赤黄	2-3mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 磨耗のため不明 内 口縁部突起と2条の沈線文	
39	"	"	陶器 鉢口縁	0004-24				外 10YR52 赤黄緑-10YR31 赤黄 内 10YR41 赤黄-10YR31 赤黄	2mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 磨耗のため不明 内 ナブ	
40	"	"	陶器 鉢口縁	0004-210				外 7.5YR42 赤黄-10YR22 赤い-黄緑 内 10YR71 赤K	磁鉄粉多く含む	外 赤線文 内 肩付後ナブ	
41	"	"	陶器 鉢口縁	0004-28				外 7.5YR42 赤黄-7.5YR2 黒 内 7.5YR23 赤い-黄-7.5YR2 黒	磁鉄粉多く含む	外 沈線文 内 磨耗のため不明	
42	"	"	陶器 鉢口縁	0004-29				外 7.5YR52 赤黄-7.5YR22 赤黄緑 内 10YR62 灰白	2mmの小石、 磁鉄粉、赤黄多く含む	外 沈線文 内 磨耗のため不明	
43	"	2 トレンチ	陶器 鉢口縁	0004-31				外 7.5YR42 赤黄 内 7.5YR31 赤黄	2mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 沈線文、沈線文 内 ナブ	
44	"	3 トレンチ	陶器 鉢口縁	0004-41				外 7.5YR74 赤い-2 内 10YR62 赤黄	2-3mmの小石、 磁鉄粉多く含む	内外 磨耗のため不明	
45	"	"	陶器 鉢口縁	0004-42				外 7.5YR54 赤い-黄 内 6YR56 赤黄緑	磁鉄粉、磁鉄粉 多く含む	内外 ナブ	
46	"	"	陶器 鉢口縁	0004-43				外 7.5YR74 赤い-黄 内 10YR62 赤黄緑-10YR32 赤黄	磁鉄粉多く含む	外 2条の沈線 内 磨耗のため不明	
47	"	"	陶器 鉢口縁	0004-44				外 7.5YR64 赤い-黄 内 7.5YR54 赤い-黄	2mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 沈線文 内 ナブ	
48	"	"	陶器 鉢口縁	0004-45				外 7.5YR43 赤黄-6YR56 赤黄緑 内 5YR53 赤い-黄黄-5YR43 赤黄	2mmの小石、 磁鉄粉多く含む	内外 磨耗のため不明、沈線 内 突起	
49	"	"	陶器 鉢口縁	0004-46				外 10YR65 赤黄緑 内 10YR69 赤黄緑	2-3mmの小石、 磁鉄粉多く含む	外 磨耗のため不明、肩付目 内 磨耗のため不明	

番号	道 路 名	出土地点	掘削 層位	発物番号	法 量(cm)			発 見	色 調	結 土	観 査
					口 径	器 重	底 径				
50	新築線(24)的	3 トレンチ	溝底 鉢口縁	0004-47				良好	外 10YR2/2 純-黄緑 内 7.5YR2/4 純-黄	2~3mmの小石、 砂粒多く含む	外 磨耗のため不明、灰み目文 内 磨耗のため不明
51	"	"	溝底 鉢口縁	0004-48				甘い	外 10YR6/2 灰白~7.5YR2/4 純-黄 内 10YR5/1 灰白~10YR2/1 純-黄	2mm大小の小石、 砂粒多く含む	外内 磨耗のため不明
52	"	"	溝底 鉢口縁	0004-410				甘い	外 10YR2/2 灰黄緑~10YR4/2 灰黄緑 内 10YR2/2 灰黄緑	砂粒、砂粒含む	外 磨耗のため不明、灰み目文 内 磨耗のため不明
53	"	"	溝底 鉢口縁	0004-411				やや甘い	外 2.5YR2 灰白 内 2.5YR2 灰白	2mm大小の小石、 砂粒多く含む	外 磨耗のため不明、沈着文 内 磨耗のため不明
54	"	"	溝底 鉢口縁	0004-413				良好	外 10YR2 純-黄緑~10YR1/1 純-黄 内 10YR2 10YR1~10YR2 純-黄緑	2~3mmの小石、 砂粒多く含む	外 磨耗のため不明、磨擦沈着文 内 ナズ
55	"	"	溝底 鉢口縁	0004-414				良好	外 10YR2/2 灰黄緑 内 10YR1/1 純-黄	砂粒多く含む	外 磨耗、沈着沈着文 内 ナズ
56	"	"	溝底 鉢口縁	0004-49				甘い	外 7.5YR2/4 純-黄~7.5YR2/2 灰白 内 10YR2/2 灰白	1~3mmの小石、 砂粒多く含む	外内 磨耗のため不明
57	"	"	溝底 鉢口縁	0004-412				やや甘い	外 10YR2/2 灰白 内 2.5YR1/1 純-黄	2~4mmの小石、 砂粒多く含む	外 磨耗のため不明、同じ沈着文 内 磨耗のため不明
58	"	"	溝底 鉢底	0004-415		4.3		良好	外 5YR2/6 黄 内 7.5YR2/2 灰白	2mm大小の小石、 砂粒多く含む	外 磨耗のため不明、灰層ナズ 内 磨耗のため不明

報告書抄録

ふりがな	へいせい17・18・19ねんど まいぞうぶんかざいちょうさねんぼう
書名	平成17・18・19年 埋蔵文化財調査年報
副書名	一国庫補助事業対象分一
巻次	
シリーズ名	太子町文化財資料
シリーズ番号	第74集
編著者名	三村修次 海野浩幸
編集機関	太子町教育委員会
所在地	〒671-1561 揖保郡太子町鵜 1369-1 Tel.079-277-1017
発行年月日	西暦 2008年3月31日

平成17年度

遺跡名	斑鳩寺遺跡 (第10次調査)						
所在地	揖保郡太子町鵜 字斑鳩寺						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 02"	134° 34' 39"		2005・5・30	20	雨水設備整備
450010	450010				～6・11		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項
斑鳩寺遺跡	寺院跡	弥生時代		石列状	土師器・瓦		
		～近世					

遺跡名	樋ノ上遺跡						
所在地	揖保郡太子町馬場字樋ノ上						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 17"	134° 34' 29"		2005・6・20	58.8	宅地造成
450010	450006				～6・22		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項
樋ノ上遺跡	集落跡	弥生時代			弥生式土器		
		～中世					

遺跡名	鵜石田遺跡						
所在地	揖保郡太子町鵜 字外前田						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 53"	134° 34' 54"		2005・6・27	76.2	店舗建設
450010	450016				～6・30		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項
鵜石田遺跡	集落跡	古墳時代			須恵器・近世陶磁器		
		～中世					

遺跡名	竹広字前田					
所在地	揖保郡太子町竹広字前田					
コード	北緯東経		調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 48' 59"	134° 34' 51"	2006・1・24 ～2・3	132	区画整理
450010						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
				弥生式土器		

平成 18 年度

遺跡名	松尾遺跡					
所在地	揖保郡太子町松尾字大岡					
コード	北緯東経		調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 39"	134° 35' 6"	2006・7・26 ～7・31	84	個人住宅
450010	450021					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
松尾遺跡	集落跡	中世	溝	土師器・須恵器		

遺跡名	東南遺跡 (第23次調査)					
所在地	揖保郡太子町鶴子橋ノ内					
コード	北緯東経		調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 54"	134° 35' 12"	2006・8・1 ～8・9	132	宅地造成
450010	450081					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東南遺跡	集落跡	縄紋時代 ～中世		縄紋式土器		

遺跡名	糸井字村ノ北					
所在地	揖保郡太子町糸井字村ノ北					
コード	北緯東経		調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 37"	134° 36' 05"	2006・8・8 ～8・11	84	宅地造成
450010						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	

遺跡名	東保高田遺跡						
所在地	揖保郡太子町東保字高田						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 17"	134° 34' 41"		2006・8・28	53	宅地造成
450010	450079				～9・1		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項
東保高田遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世					

遺跡名	立岡南遺跡 (第4次調査)						
所在地	揖保郡太子町立岡字山崎						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 24"	134° 34' 39"		2006・9・21	32	宅地造成
450010	450205				～9・26		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項
立岡南遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世				土師器・須恵器	

遺跡名	東南遺跡 (第24次調査)						
所在地	揖保郡太子町船字橋ノ内						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 56"	134° 35' 27"		2006・10・17	118	宅地造成
450010	450081				～10・26		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項
東南遺跡	集落跡	縄紋時代 ～中世		土坑		縄紋式土器	

平成19年度

遺跡名	川島遺跡						
所在地	揖保郡太子町太田字落久保						
コード	北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 74"	134° 35' 59"		2007・5・7	40	宅地造成
450010	450092				～5・9		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項
川島遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世				弥生式土器・須恵器	

遺跡名		城山遺跡						
所在地		揖保郡太子町船字城山前						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 29"	134° 34' 33"			2007・5・23	115.4	個人住宅建設
450010	450005					～6・5		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
城山遺跡	集落跡	縄紋時代 ～中世	土坑・溝・柱穴	弥生式土器・土師器 須恵器				

遺跡名		沖代遺跡						
所在地		揖保郡太子町沖代字留代町						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 48' 37"	134° 34' 20"			2007・7・4	64	診療所建設
450010	450218					～7・6		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
沖代遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世						

遺跡名		東南字田屋						
所在地		揖保郡太子町東南字田屋						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 46"	134° 35' 1"			2007・9・13	17.6	宅地開発
450010						～9・18		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			

遺跡名		王子遺跡						
所在地		揖保郡太子町王子字前田						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 43"	134° 35' 33"			2007・11・19	23	個人住宅建設
450010	450061					～11・21		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
王子遺跡	集落跡	中世						

遺跡名		鹿嶋寺南遺跡					
所在地		携保郡太子町鵜字秋頁					
コ一ド		北緯東経		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 1"		134° 34' 32"	2007・11・26 ～11・29	75	店舗建設
450010	450013						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鹿嶋寺南遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世		弥生式土器・須恵器			

遺跡名		樋ノ上遺跡					
所在地		携保郡太子町馬場字樋ノ上					
コ一ド		北緯東経		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 32"		134° 34' 19"	2008・1・9 ～1・15	121	宅地造成
450010	450006						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
樋ノ上遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世		弥生式土器・須恵器			

遺跡名		矢田部遺跡					
所在地		携保郡太子町矢田部字南角					
コ一ド		北緯東経		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 36"		134° 35' 05"	2008・1・21 ～1・25	41	宅地造成
450010	450083						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
矢田部遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世		土師器・須恵器			

平成17・18・19年度 埋蔵文化財調査年報

発行日 平成20年3月31日

発行 太子町教育委員会

兵庫県揖保郡太子町鵜1369-1

電話 079-277-1017

印刷 合名会社 柳生印刷所

